

(公財)京都市生涯学習振興財団	中期経営計画 (平成27年度～平成29年度)
-----------------	---------------------------

### 1 「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る「今後の方向性」

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性(存続, 自律化, 解散及び統合)」と「目標年度」を記載する。団体経営の長期的な目標であり、「中期経営計画」はこれらを実現するための工程表である。

方向性	存続	目標年度	—
-----	----	------	---

### 2 「今後の方向性」に向けた基本的方針

「外郭団体のあり方の抜本的な見直し」に係る各団体の「今後の方向性」を実現するため、業務面や財務面等についての基本的な方針を定める。「今後の方向性」が「自律化」の団体については、「目標年度」までの方針となる。

業務面	生涯学習総合センターにおいては、京都の各界各層の叡智を結集し、「最高水準の生涯学習」を創造し続けていくとともに、図書館では、多様な市民ニーズに応えつつ、必要な情報を的確に発信し、豊かな市民生活の実現と京都市の文化力の向上に取り組んでいく。
財務面	正規職員の少数精鋭化を進め、専門性の高い正規職員を中心に司書資格のある嘱託職員、経験豊富な退職再採用職員を活用し、高い専門性を維持しながら人件費を削減し、一層効率性を高めていく。
組織面	より質の高い生涯学習事業推進のため、学術会議的な色彩を合わせ持つ役員会等の更なる活性化を図るとともに、業務の精選・一元化を推進し、より一層機能的・効率的な組織に改編する。 また、京都市からの派遣職員の計画的な縮減を進めていく。
その他	生涯学習総合センター及び図書館の管理・運営については、直営を基本としつつ、財団による「生涯学習事業及び図書館事業」の実施により、これまで公共性と専門性の高い取組を実現するとともに、効率性という点でも大きな成果をあげてきている。今後もより良い運営及び事業実施を目指し、指定管理者制度の活用も視野に入れつつ、検討を進めていく。

### 3 基本的方針を実現するための具体的取組(3年間の計画期間中における具体的取組)

- ① 「2 「今後の方向性」に向けた基本的方針」を実現するための具体的取組を記載する。
- ② 取組ごとに、各年度の目標となる指標及び目標値を設定する。
- ③ 計画期間の最終年度(平成29年度)の目標値が中期経営計画全体の目標値となる。

#### (1)業務に関する取組

目標1 「より質の高い生涯学習事業の推進」						
取組内容	「最高水準の生涯学習」を推進していくため、財団主催で実施する事業はもとより、京都大学、国際日本文化研究センター等の大学・研究機関をはじめ、風俗博物館、彦根城博物館等の博物館施設との連携を一層密にして、より質の高い生涯学習事業を進めていく。 また、「平安京創生館」については、総合教育センターや学校と引き続き連携しつつ、小学校の授業での活用を推進する。					
○指標	事業参加者数(主催事業)					
採用理由	生涯学習事業の実施実績を把握することができる。					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位:人)
	173,226	174,000	175,000	176,000	177,000	
実現方法	現行の体制及び予算の中で、一定の事業水準を維持しつつ、新たな取組を導入し、学びのすそ野を広げていく。					

## 目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」

取組内容	市民ニーズや市民の読書スタイルの変化に対応し、より一層魅力ある図書館づくりに取り組むとともに、「第3次京都市子ども読書推進計画」に基づく学校図書館の機能充実のための運営支援に取り組んでいく。					
○指標1	図書館の入館者数					
採用理由	読書や情報検索など図書館の利用状況を把握できる。					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位：人)
	4,044,800	4,175,000	4,206,000	4,226,000	4,247,000	
実現方法	利用者アンケートによる市民ニーズの分析を行いながら、広く読書の楽しさ、大切さを発信し、図書館の活用度を高めていく。					
○指標2	学校図書館支援の実施率（支援実施校数／全市立小中学校数）					
採用理由	学校図書館支援の進捗状況が把握できる。					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位：%)
	—	—	10	30	50	
実現方法	財団職員の高い専門性を生かして、教育委員会及び学校との連携の下、全市の小中学校の図書室について、幅広くその機能充実を図るための取組を支援し、図書室のより一層の活用を図っていく。					

## (2)財務に関する取組

## 目標 「人件費の抑制」

取組内容	「生涯学習事業及び図書館事業」を財団で実施することにより、京都市が直営で行う場合に比べて人件費等の事業費を約7割に抑えてきている。 今後さらに、正規職員の少数精鋭化を進め、専門性の高い正規職員を中心に司書資格を持つ嘱託職員等や経験豊富な退職再採用職員を積極的に活用しながら、一層効率性を高めていく。					
○指標	臨時職員の活用比率					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位：%)
	—	—	35	40	45	

## (3)組織に関する取組

## 目標「より効率性を高めるための組織改正」及び「京都市からの派遣職員の縮減」

取組内容	生涯学習総合センター・図書館の各館で実施する業務をできる限り精選・一元化し、より効率的な事業実施を図るための組織の抜本的改革を行う。 また、京都市派遣職員の計画的な縮減を実行していく。 平成25年度の派遣職員数36人を5年計画で半減させる。 さらに、平成30年度以降も派遣職員の縮減に取り組んでいく。					
○指標	京都市からの派遣職員数					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位：人)
	36	31	26	21	18	

## (4)その他の取組

## 目標「より良い運営方法の検討」

取組内容	財団による「生涯学習事業及び図書館事業」の実施により、これまで公共性と専門性の高い取組を実現するとともに、効率性という点でも大きな成果を上げてきている。今後もより良い運営及び事業実施を目指し、指定管理者制度の活用も視野に入れつつ検討を進めていく。					
○指標	—					
目標値	H25(実績)	H26(見込)	H27	H28	H29	(単位： )
	—	—	—	—	—	